令和６年３月１日発行（毎月１回１日発行）

JACIC news 2024 3月号/No.417

JACIC 一般財団法人日本建設情報総合センター

ニュースと解説

2024年度社会基盤情報標準化委員会 標準化検討テーマの公募

社会基盤情報標準化委員会（以下､委員会という）は、産学官の有識者からなる社会基盤情報の標準化に関する取り組みを推進するための委員会です。委員会では、ICT技術を活用し、建設分野全体の生産性向上を図る趣旨に則った標準化に取り組むべきテーマを公募し、採択されたテーマを検討する小委員会を設置するとともに、その活動に対して支援金を交付しています｡検討成果は、委員会の承認を経て公表されます。

現在、2024年度開始の小委員会活動として、以下のとおり公募しています。

■公募期間：2024年2月5日（月）～ 2024年4月26日（金）

1．小委員会の活動期間

小委員会の活動期間は、標準化の検討テーマ採択決定（2024年6月下旬～7月上旬ごろ）の翌日から2026年6月末（約2年）とします。

申請者は、委員会が検討テーマを採択してから1か月以内に実施活動計画書を提出し、小委員会を組織・運営して標準化の検討をします。また、委員会にて活動成果の報告を行い、委員会の承認を経て小委員会活動は終了となります。

2．小委員会への活動支援金

一つの小委員会に対して、上限を300万円とする活動支援金を交付します。

活動支援金は、原則として着手時に検討費用予定額の50％を、委員会が活動の終了を認めた時点で残額を交付します。

なお、活動成果の知的財産権は、原則的に小委員会応募時の申請者が帰属を管理します。

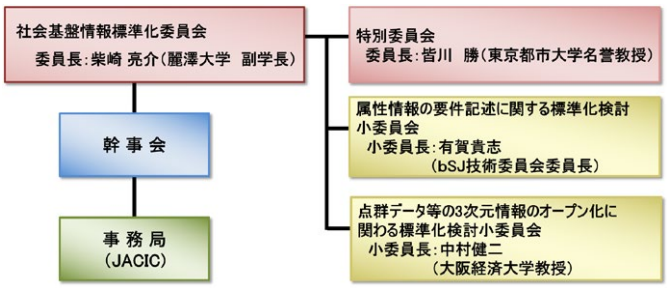
3．小委員会検討テーマ

ICT技術を活用し、建設分野全体の生産性向上を図る趣旨に則った、社会基盤情報標準化活動に関連した小委員会検討テーマを公募し、最大4件程度を採択します。

（参考）テーマの例示

- BIM/CIMの活用に関する標準化
- 建設関係データのコード・分類体系の標準化
- 土木分野の3次元データを他分野のデータと連携するための標準化
- 3次元データの取得技術に関する標準化
- 3次元データの納品形式に関する標準化
- 2次元図面の3次元データ化に関する標準化
- クラウド等新たな技術の3次元データ管理システムへの活用方法
- 建設プロセスを跨いだデータ連携・活用方法
- 3次元電子納品データの活用方法
- 土木分野での共通データ環境（CDE)､データプラットフォームに関する標準化
- IoT/AI/xRの土木分野への適用方法
- 土木分野での4D、5Dデータの活用方法
- 土木分野でのデジタルツインの活用方法
- 画像・映像情報の高度利用に係る標準化
- 遠隔臨場に関する標準化
- AI技術等の活用に係る性能基準
- UAV利用に関する標準化
- 土木分野のICT技術活用に係る教育カリキュラムの標準化
- BIM/CIMに係る国際規格（ISO 16739、ISO 19650等）の国内運用要領・ガイドライン

2024年3月時点の社会基盤情報標準化委員会は、下図のとおり委員会、特別委員会のほか、2つの小委員会を設置して検討を進めています。



4．応募に関するご案内

JACICホームページで申請方法、申請書類など詳細を掲載しています。ご高覧いただき、ご応募ください。

2024年度　社会基盤情報標準化委員会　小委員会検討テーマに対する公募案内：

https://www.jacic.or.jp/hyojun

（建設情報研究所　副所長　明野　和彦）

JACIC からのお知らせ

『令和5年度コリンズ・テクリス利用者会議』開催報告

令和6年1月25日（木）に、弊財団が運営するコリンズ・テクリス（工事・業務実績情報システム）に関して、利用者（発注機関、受注企業）からの意見・要望をお伺いするための「令和5年度コリンズ・テクリス利用者会議」を開催しました。

今回の会議では、

①令和5年8月21日にリリースした「登録内容確認のオンライン化」の利用状況等
・登録内容確認のオンライン化の普及状況
・不正行為を行った企業に関するお知らせ
・オンライン確認のオススメ

②令和5年12月15日に公表した「令和6年2月の機能改良」

について説明を行うとともに、事前に実施した「利用者アンケート」の結果を報告し、出席者との意見交換を行いました。

1．出席者

(1) 発注機関：国、地方公共団体
(2) 受注企業：建設業関係団体、建設コンサルタント関係団体、地質調査業関係団体等

利用者会議の様子

2.「利用者アンケート」の結果

(1) 募集期間：令和5年11月15日（水）～11月30日（木）
(2) 対象：システムを利用している発注機関及び受注企業
(3) アンケート方法：Web上でのアンケート調査
(4) 項目：システム全般の満足度、令和5年8月の機能改良の満足度、システム運営（ヘルプデスク）の満足度、その他コリンズ・テクリスに関する意見等について
(5) 回答数：発注機関517、受注企業2,273
(6) 主な内容

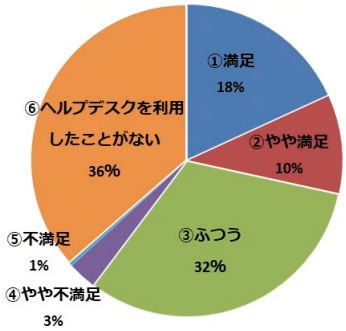
ア　システム全般の満足度について

「やや不満足」及び「不満足」との回答を合わせた割合は、発注機関で7%（昨年度9%）、受注企業で10%（昨年度14%）でした。

イ　システム運営（ヘルプデスク）の満足度について

「やや不満足」及び「不満足」との回答を合わせた割合は、発注機関で1%（昨年度0%）、受注企業で4%（昨年度4%）でした。

◆図：システム運営（ヘルプデスク）の満足度（受注企業）



ウ　新たな追加機能「登録内容確認のオンライン化」の満足度について（対象：発注機関）

既に機能を利用された方の中で「特に不満足な点はない」と回答された方の割合は92%でした。

エ　新たな追加機能「自社実績データ検索機能の拡充」の満足度について（対象：受注企業）

既に機能を利用された方の中で「特に不満足な点はない」と回答された方の割合は93%でした。

3．まとめ

○今回の会議では、昨年（令和5年）8月にリリースした「登録内容確認のオンライン化」の利用の普及について、多くの御意見をいただきました。
・受注企業団体からは、働き方改革の推進に非常に有効であり、利用促進を求める等の御意見をいただきました。
・また、発注機関からは、自機関の利用状況をウオッチするための機関別利用率等の情報提供を求める等の御意見をいただきました。
・JACICでは、この「登録内容確認のオンライン化」が受発注者双方の働き方改革の推進に資するものであり、また、昨年、テクリスへの架空業務登録事案の発覚があり、「登録内容確認のオンライン化」の普及がその確実な対策となることを踏まえ、国土交通省とも連携しつつ各発注機関への働きかけを進めていきます。

○JACICでは、今回の利用者会議及びアンケート調査でいただいた御意見、御要望等を踏まえ、今後の更なるサービス向上を図ってまいります。

会議の資料（アンケート結果を含む。）等は、以下のJACICホームページを御参照ください。

https://cthp.jacic.or.jp/overview/document/

（コリンズ・テクリスセンター　次長　池田　公隆）

JACIC からのお知らせ

『令和5年度電子入札コアシステム会員会議』開催報告

令和6年1月26日（金）に令和5年度電子入札コアシステム会員会議（旧名称：電子入札コアシステム特別会員会議）をビジョンセンター東京八重洲において、対面を基本としつつ、WEBを併用し開催しました。

1．会議の位置づけ

本会議は、電子入札コアシステムに関する情報提供と意見交換を行う場として、電子入札コアシステム開発コンソーシアムを構成する全会員（正会員、賛助会員、特別会員）及び業界団体を対象に毎年開催しております。

（会議の様子）

2．会員会議の概要

会議にあたり、JACIC三橋審議役より、会議に参加いただいたお礼とともに、忌憚なき議論をお願いしたい旨の挨拶がありました。

また、今回の主な議題は以下のとおりです。

1）コアシステム事業の状況

コアシステムの普及状況として、令和5年12月末時点の採用団体（共同利用の団体を含む）が、運用中と準備中を合わせて1,046団体（前年同時期時点で、1,007団体）となったことを報告しました。

また、今年度の活動として、「政府動向や社会情勢を踏まえた技術的な対応の方向性の検討」、「コアシステムにおけるセキュリティ向上対応」、「コアシステム関連技術の動向に関する情報提供」の実施報告及び料金表の改定に関する予告等を行いました。

2）暗号アルゴリズムの移行対応について

デジタル庁デジタル社会共通機能グループの担当者から、コアシステムを含め現在広く利用されている暗号アルゴリズム（RSA2048bit等）について移行が必要である旨の説明をいただきました。

またそれを踏まえ、事務局からコアシステムが利用する暗号アルゴリズムの対応の考え方と今後の見通しについて説明を行いました。

3）コアシステムにおける技術的な対応の状況

コアシステムが動作確認対象としているサーバ製品等のサポートの動向及びコアシステムの今後の対応に関する説明、LGPKI組織認証局の最新の動向（更新や次期システムに関する情報）とコアシステムにおけるこれらの影響について情報提供を行いました。

3．ユーザ会議の概要

当日は、会員会議に引き続いて、保守・利用契約団体様を対象に「第22回電子入札コアシステムユーザ会議」を開催しました。

この会議では、主に保守・利用契約団体間における情報共有や意見交換を行っております。

今回は、名古屋市、静岡県から提起のあった「地方公共団体の調達関連手続の共通化・デジタル化」、「共同利用システムの運営におけるインボイス対応」を主なテーマに、福岡県担当者を統括主査（議事進行役）として、参加団体間で活発な意見交換が行われました。

また、会議終了後に、複数の参加団体間において個別に意見交換・情報共有を行っている様子が見受けられました。

4．まとめ

今年度の会員会議参加団体数は、146団体（特別会員（発注機関）126団体、正会員5団体、賛助会員11団体、業界団体4団体）、ユーザ会議も保守・利用契約団体の107団体と多くの皆様にご参加いただきました。

今後もコンソーシアム会員や保守・利用契約団体様及び電子入札システム利用者の皆様からの要望を踏まえた改善、環境の変化に応じたシステムの安定運用のための対応など、電子入札コアシステムの円滑な運用に努めて参ります。

（システムエンジニアリング部　副参事　遠藤　卓也）

地方便り

九州地方センターの活動

はじめに

九州地方センターでは、九州7県および沖縄県のエリアを担当し、JACICが提供している建設関係システムについて国や地方公共団体等の発注者への利用促進およびフォローアップを行っています。前回（2023年5月号）以降の九州地方センターの主な取り組み・支援などの活動についてご紹介します。

■「電子入札コアシステムユーザー会議」の開催

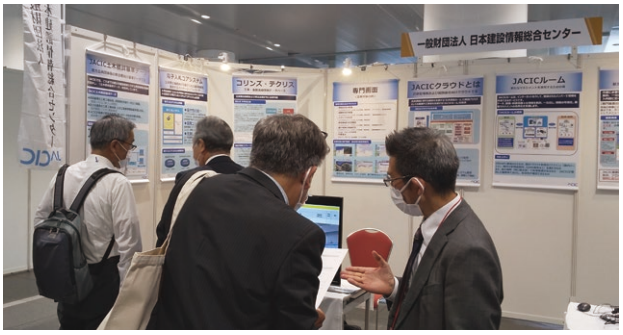
電子コアシステムの利用または利用予定の公共機関の情報・意見交換などを目的として「電子入札コアシステムユーザー会議（九州ブロック）」を7月7日に福岡市で開催しました。

会議には国および地方公共団体等、Web会議を含む24団体の参加があり、電子入札コアシステム開発コンソーシアム事務局からの情報提供やユーザー間の情報交換に対する質疑応答も行われ、有意義な情報交換の場となりました。

【電子入札コアシステムユーザー会議の様子】

■「九州建設技術フォーラム2023」への出展

10月11日・12日、福岡国際会議場において、「インフラ分野で深化するDX」を開催テーマとして「九州建設技術フォーラム2023」が開催され、JACICもブース展示および技術情報のプレゼンテーションを行いました。



【JACICの展示ブースの様子】

ブース展示では、JACICの公共調達に関わる情報システムおよび改良が続く「JACICクラウド」の専門画面等のパネル展示、パンフレット配布、モニターでの動画展示を行い、JACICの業務について紹介しました。

また、技術情報のプレゼンテーションでは、“DX時代の新たなマネジメント”と題して、様々なインフラプロジェクトの実施段階や維持管理において最新のIT技術を使いこなし、イノベーションと働き方改革を成し遂げるために必要な新しいマネジメントについて、三橋審議役によるプレゼンテーションを行いました。

フォーラムには、約2,400名の来場者がありJACICのブースにも多くの方々にご来場頂き、JACICへのご意見なども頂きありがとうございました。

【プレゼンテーションの様子】

■「建設副産物対策連絡協議会」への参加

10月23日、九州地方建設副産物対策連絡協議会がWeb会議で開催され、建設発生土の有効利用などについて関係者への情報提供が行われ、建設副産物情報センターとともに参加しました。

JACICからは建設発生土の有効活用に寄与できる建設副産物情報交換システム（COBRIS）、建設発生土情報交換システムの説明を行いました。

おわりに

JACICでは、8月21日にコリンズ・テクリスの機能改良等を行い、オンラインによる登録内容確認が可能となり、無料でご利用いただけるようになりました。業務の効率化のため、積極的に利用して頂ければと思っています。また、JACICの情報システムの導入の有無のかかわらず興味をお持ちになった方には、個別に説明などの対応を行っていますので、お気軽にお問い合せ下さい。

（九州地方センター長　村上　博）

■編集・発行　一般財団法人日本建設情報総合センター
〒107-6114　東京都港区赤坂5丁目2番20号　赤坂パークビル14階
TEL.（03）3505-2981〈代表〉　FAX.（03）3505-0414
ご意見・お問い合わせ先：https://www.jacic.or.jp/about/syozai/syozai.html
JACICホームページ　https://www.jacic.or.jp/
MSA-QS-2368　MS CM024
ISO9001認証取得
対象範囲：本社
編集・構成　日本印刷㈱
TEL.（03）5911-8660